



そこに青色のインクを入れ、三脚に取りつけたカメラで動画を撮影し、青色インクの動きを観測する。回転台は  $90[\text{rad/s}]$  で回転させる。実験開始前からの水面の乱流を抑えるため、回転させてから 5 分以上経過してから回転している円柱水槽内青色の食紅を入れ実験を実施した。三脚に取りつけたカメラから回転している水槽のスナップショットしたものを Fig.3 に示す。

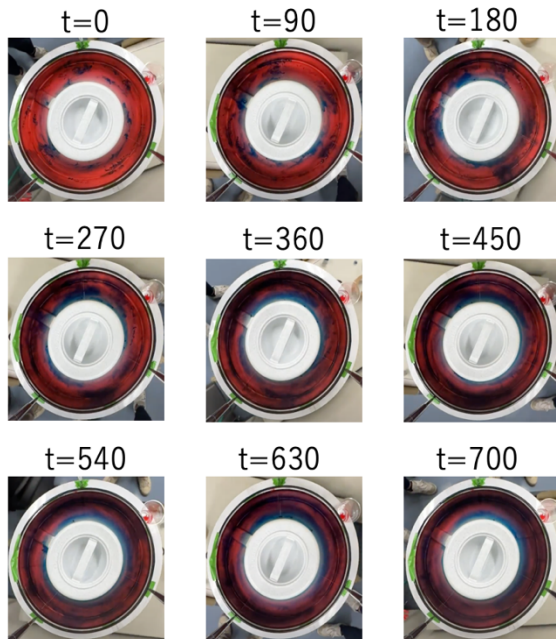


Fig. 3 水槽内のスナップショット画像

Fig.3 のスナップショット画像を確認すると時間  $t[\text{s}]$  が経過することで青色インクが流体運動に同期して時空間的に変動している様子が確認できる。また、 $t=180[\text{s}]$  くらいから青インクと赤インクの層状構造が形成され始める。これがゾーナルフロー状の構造形成の可能性がある。水面まで距離を 0 とし、水槽の外周を正の方向とし  $72\text{mm}$ 、円柱水槽の中心から  $x$  軸正の方向を  $0^\circ$  として時計回りに  $270^\circ$  進んだ地点での青インクの時間発展を示したものを Fig.5 に示す。Fig.5 で定常的な乱流状態が実現していることが確認できる。上述のゾーナルフロー状構造と乱流の時空間特性については発表で詳述する。

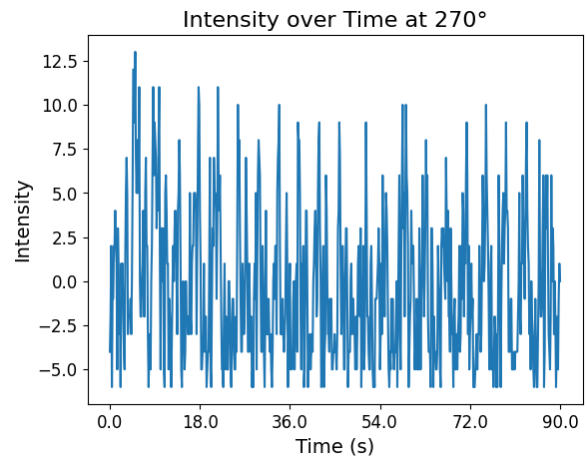


Fig.5 局所的な乱流の時間発展  
( $t=300[\text{s}]$ から $390[\text{s}]$ )

#### 4. まとめ

準二次元乱流の相互作用の素過程を調べるために回転水槽実験装置を立ち上げた。実験装置は設計、選定などを行い、一から装置を立ち上げた。円錐台によって高さ勾配を作りドリフト型乱流の励起を試みている。カメラによる計測を行いゾーナルフロー状の層構造の形成を確認した。また、時空間に変動する乱流も共存する系を実現した。発表では励起している乱流や層構造について詳述する

#### 参考文献

- 1) Diamond, Patrick H., et al., “Zonal flows in plasma—a review.”, Plasma Physics and Controlled Fusion, 47.5, (2005)
- 2) Boris Galperin, Peter L, “Zonal Jets Phenomenology, Genesis, and Physics”, (2019);, p.119-133
- 3) O D Guran and P H Diamond, Zonal flows and pattern formation, Journal of physics, (2015)